

2022年度 第4回環境科学部フィールドスクール (2022/11/5) 「島原湧水群の持続的な利用・保全のための環境調査」が行われました。

2022年11月5日(土)第4回フィールドスクールでは、「島原湧水群の持続的な利用・保全のための環境調査」というテーマで実習を行い、17名の学生が参加した。当日は天気良く、雲仙普賢岳や眉山が良く見え、高標高域からは島原市内も一望でき、フィールドを巡るには絶好の気候であった。

午前中に島原湧水群に入り、まずは高標高に位置する湧水である「焼山湧水」と「折橋湧水」を訪れた。この湧水地点では、採水調査の基本となるフィルターがけした水試料をボトルに詰める作業を行った(写真1)。ボトル内に空気が入らないように蓋を閉じる作業に学生は悪戦苦闘していたものの、実際に湧水の採水を体験した学生からは楽しそうな笑顔が溢れた。その後、市街地まで下りてきて、「われん川湧水」を訪問した。ここは、雲仙普賢岳の火砕流・土石流で被災した湧水である。当時は住宅街の中の湧水であったことを示す写真があったが、現在では周囲が更地となり、湧水だけがコンコンと湧き出す場所であった。学生らは、当時の被害の大きさを目の当たりにするとともに、自然と共生しながら生活している地元の方々に思いを馳せる時間となった。この湧水は、溶存酸素濃度が極めて低いという特徴を有するため、実際に湧水に溶存酸素計を挿入することで、ぐんぐん数値が低下するのを確認することで、なぜ濃度低下するのか、どんな経路で湧出しているのかについて考える機会となった(写真2)。

島原の名物料理である「具雑煮」の老舗・姫松屋本店で昼食を取り、次に島原市街地の「浜の川湧水」を訪問した。地元の方が野菜を洗ったり水を汲みに来たりするなど、人々の生活と密接に関わる湧水である。この地点のすぐそばでは、地元の特産品である「かんざらし」のお店があるため、全員で堪能した。続いて「四明荘」を訪問し、湧水に囲まれた日本家屋にて島原の自然や歴史に関するお話を伺うことができた(写真3)。最後に武家屋敷を訪問し、長い距離を通る水路の水が湧水であることを説明することで、ここでも島原湧水群が地域と密接に関わる水資源であることを体感し、集合写真を撮って大学へと戻った(写真4)。

帰路では、諫早湾干拓道路を経由したため、今後環境科学部での授業等でキーワードとなるであろう諫早湾の干拓事業について、実際に見て感じる機会を提供した。今回で3回目のフィールドスクールの担当だったが、天候にも恵まれスムーズに引率することができた。コロナ禍でなかなか現地調査を体験できなかった学生らが今回の機会を通じてフィールド調査を体験できたのは良い企画であったと感じている。



写真1：採水作業の実体験



写真2：溶存酸素濃度の測定を見学



写真3：「四明荘」訪問の様子



写真4：参加者の集合写真@武家屋敷